

【大学間協定留学】 留学報告書

記入日	2026年2月27日
明治大学の所属学部・研究科 ※学部・学科・研究科・専攻等	明治大学文学部文学科文芸メディア専攻
留学(渡航)した時の学年	3年生
帰国年月日	2026年2月8日
明治大学卒業予定年月	2027年3月
留学先大学について	
留学先国	オーストリア
留学先大学	ザルツブルク大学(日本語名) Paris Lodron Universität Salzburg(現地言語名)
現地使用言語/ 授業使用言語	英語、ドイツ語/英語
留学期間	2025年9月～2026年2月
留学先大学で在籍した学年	3年生
留学先の所属学部等	<input type="checkbox"/> 特定の学部・研究科等に所属している(以下に学部等名を記入) ※学部等名 日本語名: 現地言語での名称: <input checked="" type="checkbox"/> 特定の学部等に所属せず様々な学部等の授業を履修している <input type="checkbox"/> その他:
形態	<input checked="" type="checkbox"/> 国立 <input type="checkbox"/> 公立 <input type="checkbox"/> 私立 <input type="checkbox"/> その他:
学年暦 ※記入例: 1 学期: 4月上旬～7月下旬 2 学期: 9月中旬～2月上旬	1 学期: 10月～1月末 2 学期: 3月～7月 3 学期: 4 学期:
学生数	1万8,000人
創立年	1962年

留学費用			
留学費用項目	A 現地通貨 (€) (1 現地通貨 = 184(帰国時)円)	B 日本円	備考
授業料		円	
宿舍費	750/月	円	寮ではなくアパートに住んでいた為
食費	200/月	円	
図書費	30	円	
学用品費		円	
携帯・インターネット費		10,000/60 日円	e-SIM
現地交通費	160	円	Klima Ticket(<input type="checkbox"/> 大学まで徒歩・自転車)
教養娯楽費		円	
旅費(留学中)	1300	円	
被服費		円	
医療費		円	
保険費		55290 円	形態:
渡航旅費		220,920 円	
ビザ申請費		27,000 円	
雑費		円	
その他	42	円	Meldezettel(住民登録)
その他		円	
合計 ※現地通貨 および 円	4300 (=787, 889 円)	328, 210 円	
総計(A+B) ※円		1, 116, 099 円	

※現地通貨で支払ったものは「A 現地通貨」の欄に、日本円で支払ったものは「B 日本円」の欄に記入し、総計も記入してください。

※現地通貨名、現地通貨と円の為替レートも必ず記入してください。

現地情報

1) 留学期間中、病気やケガをされましたか。した場合、どこで治療を受けましたか。

(例: 現地の病院、学内の診療所)

なし

あり (治療を受けた場所: _____)

2) 留学期間中、学内外で問題はありましたか。あった場合、誰に相談しましたか。

(例: 留学先大学の相談窓口、現地の友人等)

なし

あり (問題の内容や相談した人等: _____)

3) 現地の危険地域情報をどのように収集し、どのような防犯対策をしましたか。また、実際に盗難等を含む犯罪に巻き込まれたことはありますか? その際どのように対処しましたか?

現地の危険地域に関する情報は、インターネットや SNS、旅行ガイドブック、現地の知人など、複数の手段を用いて収集していた。できるだけ多方面から情報を得ることで、現地の状況を具体的に把握するよう心がけた。

ザルツブルクは日本と同様に治安が良く、安心して生活することができた。一方で、他地域へ一人で旅行した際には、貴重品を衣服の内側に身につける、夜遅くに外出しなくて済むよう事前に計画を立てるなど、基本的な防犯対策を徹底した。その結果、滞在中に盗難や犯罪に巻き込まれることはなかった。

4) 携帯電話や、インターネットについて、現地での利用・接続はいかがでしたか。

(例: 寮のインターネット接続が不安定で 1 週間に 1 度は全く繋がらない時がある。街にあるほとんどのカフェでは WIFI 接続が可能であったので、寮で使用できない時はカフェに行った。)

滞在先および大学の Wi-Fi を主に利用しており、基本的には問題なく使用することができた。ただし、年明け以降しばらくの間、原因は不明で全体的に通信状況が不安定な時期があった。

5) 現地での資金調達はどのように行いましたか?

(例: 現地に銀行口座を開けて日本の親から送金してもらった。銀行口座は現地で外国人登録をしないと開設できない。また、クレジットカードも併用していた。)

現地で銀行口座の開設は行わず、クレジットカードや Wise を利用してやりくりしていた。また、VISA デビットカードに紐づけた日本の口座へ定期的に送金してもらう形を取り、必要以上の現金や資金を保持しないように管理していた

6) 現地では調達できない日本から持っていきべき物があれば教えて下さい。

日本から様々なものを持参したが、基本的には現地でも入手可能なものが多く、スーツケースの重量ぎりぎりまで詰め込む必要はなかったと感じた。ただし、現地で購入すると日本より高価な場合が多いため、余裕があれば持参するのもよいと思う。

7) 【授業料負担型の方】授業料の支払方法、支払時期等について教えてください。

(例: 渡航前に自分で指定したクレジットカードで支払った、現地で開設した銀行のチェックで支払った。)

学習・研究活動についてのレポート(履修した科目ごとに記入)

1) 留学先で取得した単位数合計		本学で認定された単位数合計 ※該当項目にチェックのうえ、記入して下さい。
12 単位		<input type="checkbox"/> 単位 <input checked="" type="checkbox"/> 単位認定の申請はしません(理由:申請前です)
2) 履修登録の時期・方法及び履修制限		
<input type="checkbox"/> 出発前 <input checked="" type="checkbox"/> 出発後 <input type="checkbox"/> 派遣先大学の事務室 <input checked="" type="checkbox"/> オンライン <input type="checkbox"/> メール <input type="checkbox"/> その他() <input type="checkbox"/> 履修の制限があった:		
3) 以下は留学先で履修した科目についてのレポートです。今後留学をする人たちへのアドバイスも含めてお書き下さい。記入スペースが足りない場合は、A4 用紙で別途作成し、添付してください。		
履修した授業科目名(留学先大学言語)		履修した授業科目名(日本語)
American Photography		
科目設置学部・研究科	English and American Studies	
履修期間	Winter Semester	
単位数	5	
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)	
授業形態	Seminar Course(チュートリアル、講義形式等)	
授業時間数	1 週間に 90 分が 1 回	
担当教授	Joshua Parker	
授業内容	写真技法や、特性の歴史、AI が現代の写真界にどのように影響を当てているかなどについて、象徴的な写真作品や論文から議論を展開する	
試験・課題等	プレゼンテーション、最終レポート	
感想を自由記入	自分以外全員が院生の Seminar クラスだったので、内容もすごく難しく、追いつくのが大変だったが、すごく刺激的で楽しかった。	

履修した授業科目名(留学先大学言語)	履修した授業科目名(日本語)
German as Foreign Language. Basic Level 1, A1	ドイツ語 A1
科目設置学部・研究科	
履修期間	Winter Semester
単位数	12
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	exercise Course (チュートリアル、講義形式等)
授業時間数	1週間に90分が4回
担当教授	Ines Kogler
授業内容	A1レベルのドイツ語
試験・課題等	小テスト、中間テスト、期末テスト、数回の課題提出
感想を自由記入	英語でドイツ語の勉強をするので、少し難しく感じましたが、クラスメイトに様々な国籍の人がいて、友達が作りやすい環境でした。先生もやさしく、楽しくドイツ語を学べる環境だと思います。

履修した授業科目名(留学先大学言語)	履修した授業科目名(日本語)
Literature, Media and Visual Cultures in Nineteenth Century Britain	19世紀 イギリス
科目設置学部・研究科	English and American Studies
履修期間	Winter Semester
単位数	4
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	Lecture(チュートリアル、講義形式等)
授業時間数	1週間に90分が1回
担当教授	Julia Boll
授業内容	19世紀イギリスのメディア文化について学び、社会や政治、ジェンダー、帝国の変化とどのように関わっていたかについて学ぶ。オースティンやエリオットなどの作家、ゴシック文学、舞台芸術などを扱いながら、産業化や植民地支配などの時代背景との関係も分析する。
試験・課題等	期末テスト
感想を自由記入	講義型の授業でしたが、先生が朗読をしたり、舞台の映像を流してくれたり、様々な芸術文化に触れることができる授業でした。

履修した授業科目名(留学先大学言語)	履修した授業科目名(日本語)
Politics, History, Migration and Culture. Austria in the 20th and 21st Century	オーストリアの歴史
科目設置学部・研究科	History
履修期間	Winter Semester
単位数	3
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	Lecture(チュートリアル、講義形式等)
授業時間数	1週間に90分が1回
担当教授	Laurence Cole
授業内容	20世紀以降のオーストリアの歴史と社会について学ぶ。第一次世界大戦後の成立、ナチス時代、戦後の復興、EU加盟までの流れを扱う。政治・文化・社会の変化や、移民、観光などのテーマについて毎週違うゲストが来てレクチャーをしてくれる。
試験・課題等	期末テスト
感想を自由記入	オーストリアの文化や歴史について学びたく、受けましたが、どちらかというと政治などについての内容が多く、最終的に履修を取り消して聴講だけにしました。オーストリアの音楽文化についての授業はすごく面白かったです。

卒業後の進路について

1) 進路 ※3年生以下の方は今後の予定を記載してください。(下記2以降は記入不要)

就職 進学 未定 その他:

2) 進路決定の際に活用したウェブサイト、書籍、機関等

3) 就職を選択した方は、差し支えなければ内定先を教えてください。また、その企業を選んだ理由も教えてください。内定を得た企業すべての名前、あるいは入社すると決定した企業の名前のみでも構いません。就職活動をこれから始める場合は、差し支えなければ現時点で希望する業界、職種等を教えてください。

映画業界

4) 就職活動中・終了に関わらず、就職活動について感想・アドバイスをお願いします。
(例: 留学中の就職活動に向けた準備、帰国後に就職活動を始めるにあたり注意すること等。)
就職活動を不安に思い、留学を断念する方もいます。
ご自身の経験を踏まえてアドバイスをお願いします。
就職活動をこれから始める場合は、留学経験を通して就職活動に対する意識や希望する就職先の変化等を教えてください。

現在は就職活動を進めておりますが、進路は未定です。留学前は、就職して4年で卒業することが望ましいと考えておりましたが、留学先でさまざまな価値観を持つ人々と出会い、自分の将来について改めて考えるようになりました。

そのため現在は就職活動を行いながらも、進学やワーキングホリデーといった選択肢についても視野に入れ、自分にとって納得のいく進路を見つけていきたいと考えております。

5) 進学を選択した方は、差し支えなければ進学先を教えてください。

6) 進学を志す留学希望者に向けたアドバイス(準備、試験対策等)をお願いします。

7) その他を選択した方は、その進路を選択した理由と、留学希望者に向けたアドバイスをお願いします。

留学に関するタイムチャート

留学するまでの準備、試験勉強、留学中、留学後、特に留学に関連して発生した事項を記入してください。

(例: 語学試験の勉強、選考、出願、ビザ申請・取得、航空券購入、予防接種、滞在先確保、留学中の中間試験・期末試験、その他イベント等)

留学開始年の 前年	1月～3月	
	4月～7月	
	8月～9月	留学に行くことを決めた
	10月～12月	応募、面接選考 ニューヨークに派遣決定
留学開始年	1月～3月	留学先大学に書類など提出、予防接種
	4月～7月	アメリカ学生ビザ停止、留学先変更
	8月～9月	ザルツブルクに派遣決定、滞在先、航空券、ビザ確保
	10月～12月	留学
留学/帰国年	1月～3月	留学、帰国
	4月～7月	
	8月～9月	
	10月～12月	

留学を志す学生へのアドバイス

※ これから留学を志す学生へ、この留学先国・大学を選んだ理由、留學生活全般等について、アドバイスを記入してください。

私がこの留学先を選んだ理由は、もともとヨーロッパに興味があったことに加え、映画『サウンド・オブ・ミュージック』が好きで、ザルツブルクの街に一度行ってみたいと思っていたからです。最初は別の国への留学を予定していましたが、ビザの関係で出発の約1か月前に行き先を変更することになり、最終的にザルツブルク大学へ留学しました。ドイツ語の勉強経験がなかったこともあり一度は候補から外していた場所でしたが、結果的にはこの選択でよかったと感じています。

留学前は、ビザの取得や住居探しなど思うように進まないことも多く、不安になることもありました。実際、ビザが発給されたのは出発の3日前で、住居もなかなか見つからず、何件も連絡をしてようやく決まったという状況でした。この経験から、準備はできるだけ早く進めることが大切だと感じました。一方で、不備やトラブルがあっても、大使館や大学に直接問い合わせることで対応してもらえることも多く、困ったときは行動することが大事だと感じました。

実際に現地では生活が始まると、出発前に感じていた不安は想像していたよりも早くなくなりました。ザルツブルクは街並みがとてもきれいで、落ち着いた雰囲気があり、安心して生活できる場所でした。住んでいたアパートは市の中心から少し離れていましたが、とてもきれいで、何より大家さんや周りの人に恵まれていました。大家さんが同年代の友人を紹介してくれたおかげで、到着して1週間ほどで現地の友達ができ、一緒にザルツブルクの伝統的なお祭りに行ったり、民族衣装を着せてもらったりと、観光だけではできないような経験ができました。年末には現地の人たちと一緒に花火をしたり、友人の家族が用意してくれた料理をいただいたりと、人とのつながりがあったからこそできた経験も多かったです。

また、ヨーロッパに留学するなら、できるだけ多くの場所に旅行することをおすすめします。私は「こういう機会はないかもしれない」と思い、できるだけいろいろな国や都市を訪れました。後半になると、授業や課題も忙しくなり、一人暮らしとの両立で疲れることもありましたが、それでも行ってよかったと思えることばかりでした。旅先では新しい出会いも多く、現地で友達ができ一緒に食事をしたり観光をしたりする時間はとても印象に残っています。帰国後の今、世界情勢が不安定なこともあり、「いつか行きたい」と思っている場所には、行けるときにしておくことの大切さも実感しました。

この留学を通して強く感じたのは、「思っているより何とかなる」ということです。私はもともとあまり積極的なタイプではありませんでしたが、留学中は意識して行動するようにしていました。正直、不安なことも多く、自分には無理かもしれないと思うこともありましたが、実際には予想通りいかなかったり、最後はなんとかなることがほとんどでした。むしろ、想像していなかった形でいい方向に進むことも多かったように思います。

もちろん、今回の留学は運や人との縁に恵まれていた部分も大きいと思います。ただ、その運や縁も、自分から動かないとつながらないものだと感じました。少し疲れていても、誘いに乗ってみる、話しかけてみる、といった小さな行動の積み重ねが、結果的に大きな経験につながったと思います。

留学に対して不安を感じるのは当然だと思いますが、完璧な準備ができていなくても、行ってみればどうにかなることがほとんどです。大きな成長や変化を無理に求めなくても、新しい環境で生活するだけで十分に意味があると感じました。少しでも興味があるのであれば、ぜひ挑戦してみてくださいと思います。